
岐阜市立岐阜商業高等学校

校長 杉原茂男

学校住所 岐阜市鏡島南2丁目7番1号 TEL 058-251-0165

1 会議の名称 学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委員 戸野部 正 八 鏡島自治会連合会会長
竹本 康 史 岐阜聖徳学園大学教授
川田 博 子 元PTA会長
山内 義 孝 (株)サムソンフィクセル代表取締役

学校側 杉原 茂 男 校長
種田 実津男 事務長
小野木 仁 孝 教頭
林 美知尾 教務主任
廣江 修 生徒指導主事
高木 秀 樹 進路指導主事
小林 和 豊 商業科主任

3 会議の目的 地域社会との連携を一層深め、効果的で開かれた特色ある学校運営を推進する。

4 会議の開催 平成24年6月27日(水) 13時30分～15時20分
岐阜市立岐阜商業高等学校 校長室
委員4名と学校側7名が出席

5 会議の概要

(1) 挨拶 (校長)

- ア 本校に着任して3年目になる。課題は、生徒が興味関心を持ち、積極的に授業に取り組める分かりやすい授業の展開であり、生徒のニーズに応える授業を行うことである。
- イ 市立高校のアイデンティティを大切にして、地域に位置づけられる学校づくりを目指している。
- ウ 地域貢献やボランティアなど市立高校としてできることを取り組んでいく。
- エ 本校の財産は生徒である。教育活動を通して生徒に自信をつけさせ、生徒といろいろな角度から接し育てて社会に出したい。

(2) 学校評議員の委嘱

- ア 校長より4名の学校評議員を委嘱した。

(3) 日程説明 (教頭)

- ア 授業見学 1 3時40分～14時10分
イ 学校側の説明、意見交換 14時10分～15時20分

(4) 授業見学

- ア 商業科の授業の実習科目を中心に5つ見学した。

(5) 授業見学の感想 (学校評議員)

- 意見1
- ・全体的には、真面目にしっかりと授業を受けている。
 - ・生徒がワープロや簿記などに目標を持ってスキルアップに取り組んでいる。
 - ・先生が生徒に教科書を読ませた後に、生徒に対して丁寧な言葉で対応したので、と先生と生徒との関係にやや疑問を感じた。
 - ・生徒は先生の説明をよく聞いていたが、生徒との双方向のやりとりがあまりなく、先生だけが話しているといった感じがした。
- 意見2
- ・生徒は、自分を高めるために検定の上位級に挑戦している。
 - ・コンピュータの授業を見て、操作する上でやむを得ないことかもしれないが、先生の目線が教師卓のパソコンの画面に注がれ、生徒に対する目線がないように感じた。生徒との繋がりが画面を通しての繋がりになっていて、直接触れ合う関係が無いように思われた。
 - ・生徒同士がお互いに刺激しあえるような方法を取り入れた方が、生徒がもっと伸びると思う。
 - ・生徒は真面目に取り組んでいるだけで本当によいのか。もっと興味をもって楽しめた方がよいのではないか。
- 意見3
- ・ワープロの授業で、キーボードを見ないで画面のみを見て入力していたのには驚いた。これは、どこに行っても通用する。
 - ・実践力は素晴らしいものがある。社会に出てもすぐに間に合う。
 - ・指導者が熱心である。
 - ・部屋が暑かった。コンピュータの出す熱も相当あるのではないか。この時期には、冷房を入れてもよいのではないか。
 - ・鏡島地区の地域行事「論田川の清掃活動」と「虻風揚げ」には、いつも積極的に参加してもらって感謝している。
 - ・市岐商の西の角に新築の家が建ち、見通しが悪くなったので、カーブミラーの設置をお願いしてきた。

- 意見4
- ・1年生は、真面目で、髪型や服装が乱れている生徒は殆ど見かけなかった。
 - ・真面目に授業を受けているのに感心した。
 - ・すぐにノートに書いている生徒と、そうでない生徒の差が出てくるように思う。ここでつまづかないようにと願う。
 - ・大きなバッグがあり、教室が狭く感じる。
 - ・先生が一度説明して、その後生徒が実践するという方法で授業が展開されているが、生徒は受け身の姿勢で、しっかり理解できるのかが疑問である。
 - ・先生の一方向的な説明で、双方向のやりとりが少ないように感じた。

(6) 学校説明 (学校側)

<校長より>

- ・本校は、部活動など商業教育以外のイメージで入学する生徒が多い。中には中学校では、英語や数学、国語など得意でない生徒もいる。
- ・商業の科目は高校に入学後、初めて履修する科目であるので、興味を持たせる工夫をして、得意科目(自信の持てる科目)になってほしい。とりわけ1年生の商業科目(ビジネス基礎、簿記)の授業改善が急務である。
- ・学習したことを体験や実習をとおしてフィードバックさせ、生徒自身が考える授業を展開し、課題を解決する喜びを知るとともに学習している内容がどのように役立つか実感し、「商業は面白い。もっと頑張ろう。」という学習意欲の高い生徒の育成をはかりたいと考えている。

※各分掌で取り組んでいること

<教務より>

- ・「分かる授業」「楽しい授業」を目指すため、授業改善が必要である。全職員が必ず授業参観をし、その後の記録表を渡すことで意見交流をする。そこからの反省点を自分の授業に活かすということを徹底させていきたい。
- ・生徒の個人情報(個人カルテ)を共有することで、個々に応じた指導ができるシステムを構築させていきたい。

<生徒指導より>

- ・朝の校門指導を毎日多くの職員で実施することにした。それにより、生徒の身だしなみも少しずつ良くなってきたようだ。
- ・自転車での交通事故は、4月2件、5月3件、6月2件おきている。そのため、自転車事故対応として、記録カードを作成し持たせている。また、自転車の運転講習会を実施して交通安全の意識の高揚を行っている。

<進路指導より>

- ・50社程の企業訪問を実施した。女子(事務)の求人が厳しいようだ。
- ・進路指導と商業科とタイアップして、外部講師を招聘し民間の活力を導入し、異なった視点からの指摘を進路実現に役立たせたい。その具体例として、先日、公務員(消防・警察・自衛隊)のガイダンスを実施した。実際に働いている人から説明を受け生徒の評判も良かった。

<商業教育より>

- ・外部講師による授業を計画的に実施し、授業に集中させる。
- ・市民講座を実施し、市民の方々と触れ合いながら、さらに地域の方々とつながりを持つ。昨年度は「年賀状の作成」など評判が良かった。
- ・人と人とが触れ合い、コミュニケーション能力を高める。
- ・市岐商デパート30周年を迎え、検討中だが昨年のように宮古商とのタイアップを考えている。また、具体的なこととして、オリジナルのマフラータオルを作り販売することを考えている。

<事務部より>

- ・耐震工事について、7月下旬から2月までが工事期間である。業者が決定してから日程等で詰めた。
- ・来年度以降も、学校のいろいろな施設等において少しずつ良くしていく。

(7) 意見交換

意見1 ・耐震工事は7月から始まり、2月までかかるということであるが、騒がしくないのか。また、夏休みだけの集中工事では無理なのか。

学校側 ・騒音は、昨年とは工法が異なるので多少違う。

意見2 ・市岐商デパートへの影響、特に当日は、多くの来客があるがどうなのか。

学校側 ・耐震工事の入札の付帯事項に市岐商デパートの保護者の飲食部門のスペースの確保がつけてあるので、大丈夫だと考えている。
・入札においては、事後評価式を採用し、工事金額の面だけの入札ではなく、計画書を提出して、学校への配慮等ポイント制で評価し、契約業者が決められる。

意見3 ・高校のクーラーの設置については、どうなのか。

学校側 ・高校の場合は県は設置しないと明確に言っている。高校で設置している学校は、PTAの費用で設置している。
・本校の場合、クーラーの設置については、先の見通しがはっきりしていないので、やりづらい。

意見4 ・3年間の中で、進路選択はいつ頃の時期にどんなタイミングで行っているのか。

学校側 ・1年生の早い時期に進路希望調査を実施して、就職希望か、進学希望かを把握している。
・今、3年生の進学希望者は決まってきたので、後はどこの大学を受験するのかを決める状況にある。
・就職希望者の方は、自分が就きたい職種を決めつつあるが、希望職種の求人依頼があるかという点が問題である。
・就職希望者が企業が求める人材とマッチしているかを考慮しながら生徒の就職相談を行

っている。

- ・資格や検定に合格していない生徒が事務職を希望しても難しいので、生徒の職業適性に配慮している。
- ・求人が次の年にも繋がるので、誰でもよいというわけにはいかない難しさがある。

意見5 ・今年の4月に入社した者が3ヶ月経って、この仕事は自分には向いていないと言い出したケースがあった。

学校側 ・そういったケースを考えると、本人の自己分析と職業適性の判断が甘かったのではないか。そのような事例を防ぐために、何回も就職ガイダンスや外部講師による講話等を行い、3年間を見据えたキャリア教育を計画している。

意見6 ・本人が就きたい職業と、自分の適正が合っているかの自己分析ができていないようだ。
・周りがサービス業には向かないと思っても、本人が夢ばかり追っているような場合がある。本人は意外と自分のことは分からないので周りがアドバイスする必要がある。

意見7 ・進路ガイダンスにいろいろな職種の卒業生を呼んでください。母校の後輩の役に立てるならば、皆喜んで来ると思います。
・就職の内定率を高めるためには、早い時期に生徒をいかにやる気にさせるかが大切である。そのためには、色々な人に来て貰って話しを聞いたり、色々な場所に出かけて就業体験を積むことで仕事の厳しさや自己の適性を知ることは大切ではないか。
・就職状況が厳しい時こそ、市岐商の生徒は強いというような生徒を育てていただきたい。

学校側 ・自分を高めるため、自分は何が得意であるかを見つけていくために社会人からリアルな声を聞かせてほしい。